

試験データ

1. 浮遊菌に対する試験

試験機関 財団法人 北里環境科学センター

供試品 バクテリサイド-N型

*ゲル剤に紫外線を照射して二酸化塩素ガスを発生させる装置

対象菌 結核菌

結果 50 L の空間で浮遊する結核菌 1.0×10^3 個が二酸化塩素ガスにより 0 個になった

2. 浮遊菌に対する試験

試験機関 財団法人 北里環境科学センター

供試品 バクテリサイド-N型

*ゲル剤に紫外線を照射して二酸化塩素ガスを発生させる装置

対象菌 M R S A

結果 50 L の空間で浮遊する M R S A 9.6×10^6 個が二酸化塩素ガスにより 10^2 個以下になった

3. 浮遊菌に対する試験

試験機関 杏林大学医学部微生物教室

供試品 バクテリサイド B - 1 型 (ベッド用)

対象菌 O - 157、M R S A

結果 O - 157 は 8.7×10^4 個が $< 5.0 \times 10$ (検出限界) となった。

M R S A は 8.7×10^4 個が $< 5.0 \times 10$ (検出限界) となった。

4. インフルエンザウィルスに対する試験

試験機関 N P O 法人 バイオメディカルサイエンス研究会

(1) 供試品 液体安定化二酸化塩素 (pH9)

対象菌 インフルエンザウィルス A 香港型

結果 二酸化塩素濃度 0.05 ~ 25000 ppm で抗インフルエンザ活性効果はみられなかった。

* 安定化二酸化塩素は酸を添加して pH4 以下でなければ効果はない。インフルエンザウィルスは酸に弱いため、pH4 に調整した場合、測定が出来ない。

(2) 供試品 バクテリサイドを用いた二酸化塩素ガス

対象菌 インフルエンザウィルス A 香港型

結果 バクテリサイドを用いた二酸化塩素ガスは、暴露時間 3 時間以上で、抗ウィルス活性が見られた。

5. 菌液に対する試験

試験機関 NPO法人 バイオメディカルサイエンス研究会

供試品 バクテリサイドを用いた二酸化塩素ガス

対象菌 MRSA

結果 菌液を染みこませたガーゼに二酸化塩素ガス(0.5ppm~4ppm)を2時間暴露してから培養したところ、菌は発育しなかった。

6. 臭気に対する試験

試験機関 (社)日本食品分析センター

供試品 ゲル 5000ppm

対象 トリメチルアミン メチルメルカプタン

結果 10Lのバックに臭気ガスと20gのゲルを入れて1分~60分の時間経過で臭気は数%まで消臭された(ph調整、紫外線照射は不明)

7. 生鮮野菜などの消毒試験

試験機関 不明

供試品 安定化二酸化塩素を10ppm,50ppm,400ppm,1000ppmに濃度調整したもの。(pH3.5~4.5)

対象菌 サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌、大腸菌、連鎖状球菌、カビ類

結果 各菌とも濃度依存的に除菌された(90%~99.9%)

8. 生鮮野菜などの消毒試験

試験機関 (社)日本食品衛生協会

供試品 安定化二酸化塩素 (350ppm pH4)

対象 人参、大根、レッドキャベツ、キャベツ、レタスの一般生菌及び大腸菌

結果 人参、大根、レッドキャベツの一般生菌数は300以下 レッドキャベツは 4.5×10^6 キャベツは 4.4×10^5 レタスは 7.8×10^4 まで除菌された。大腸菌はすべて陰性となった。

9. 排水処理施設の放流水消毒試験

試験機関 内藤環境管理(株)

供試品 安定化二酸化塩素 (300ppm & 400ppm pH4)

対照原水の性質

pH6.7、水温26℃、BOD8.7 COD18.0、一般細菌49000個/ml、大腸菌数410個/ml、

結果 300ppm添加の場合、30分後に一般細菌は1300個/ml、大腸菌数は0個/mlとなった。

10. 二酸化塩素ゲルからの二酸化塩素ガス拡散試験

試験機関 (株)ファルコライフサイエンス

結果 1h : 1.2ppm 以上 3h : 0.46ppm 以上 5h : 0.4ppm 以上 24h : 0.24ppm 以上

製品使用説明

1) 安定化二酸化塩素水溶液を使う場合

一般家庭ではスプレーをキッチン等の生ゴミに噴霧して使用する。

(生ゴミは酸性なので pH 調整せずに使用できる)

2) 安定化二酸化塩素ゲルを使う場合

一般家庭ではゲルを冷蔵庫、自動車内、エレベーター、トイレ、お風呂場などの局部的消臭・消毒剤として使用する。

3) 安定化二酸化塩素粉末剤を使う場合

一般家庭ではロッカー、靴箱、棺などの消臭・消毒剤として使用する。